

【Accopsニュースレター】 2026.8.26 製品リリースについて

2026/09/17 20:29:37

記事印刷

区分:	ACCOPS FAQ::01. お知らせ	投票:	0
ステータス:	公開 (全員)	結果:	0.00 %
言語:	ja	Last update:	2026/08/28 - 13:58:54

キーワード

HyWorks

症状 (公開)

問題 (公開)

解決 (公開)

【 HyWorks 】
HyWorksの新しいバージョンがリリースされました。
・リリース名: HyWorks v4.1 Hotfix2 (HF1およびHF1.2の変更を含む累積リリース)
日本では2026年8月24日よりサポートされています。
また、充分な検証を実施の上、適用されることをお勧めいたします。

◆適用対象
このリリースは、HyWorksの以下のリリースに適用可能です。
HyWorks Controller バージョン v4.1 または v4.1+HF1.2

◆今回のリリースのハイライト
Nutanix Connector の新しいサブタイプ
NutanixのPrism Centralタイプのコネクタには、以下のサブカテゴリと構成が追加されました。
・Prism Central (バージョン7.3以上) V4.0 および V4.2 (推奨)、V3
・Prism Central V>7.0かつ<7.3 V4 (推奨)、V3
アップグレード後、HyWorksコントローラが、新しいサブタイプ : Prism Central (バージョン > 7.3) および
APIタイプ : V4.0/4.2 (推奨)
構成に対応しているにもかかわらず、古いサブタイプ/APIタイプで実行されている既存のNutanixプロバイダを検出した場合、
コネクタ関連の操作に関する警告ログが生成されます。
これにより、管理者はNutanix API v4.2を使用するように再構成する必要のあるプロバイダーを特定できます。

重要
現在、APIv4に関する未解決の問題：
スナップショットからのクローン機能がAPIv4で正しく動作しません (HyWorks v4.0以降で発生する問題)。
Nutanix Connector APIv4 を使用したスナップショット (リカバリポイント)
からのクローンでは、選択したリカバリポイントが使用されず、代わりに現在の VM の状態から直接クローンが作成されます。この問題は Nutanix APIv4
で確認されており、HyWorks では確認されていません。
この問題を軽減するために、APIv4.2が統合されています (Nutanix PC v7.3以降で利用可能)。
現在、APIv4.2で発生している問題：
APIv4.2はスナップショットからのクローン 機能をサポートしていますが、MACアドレスを保持するオプションがありません。これもNutanix API
v4.2の不具合として認識されています。MACアドレスを保持するには、スナップショットからではなく、ソースVMから直接クローンを作成する必要があります。
今回のリリースでは、設定されたAPIバージョンとNutanixサブタイプに基づき、これらの機能は無効化されています。これらの問題に対する修正プログラムは近日中にリリースされる予定で
す。

Azure - 自動再試行機能を備えた、操作ごとの構成可能なAPIレート制限
HyWorksは、操作タイプ (読み取り/書き込み/削除/グラフ/認証) ごとにAPIスロットリングを行うAzureコネクタを備えており、Azureからエラー応答 (HTTP
429/503) を受信した場合は自動的に再試行するため、負荷がかかった状態で大規模なプロビジョニングや一括削除操作が失敗するのを防ぎます。同時実行制限は、管理者が入力した1分あ
たりのレート制限 (リトルの法則) に基づいて計算され、設定はサービスを再起動することなく有効になります。

AVD - より詳細な操作ログ
AVD関連の2つの操作ログに、一般的な成功メッセージの代わりに識別情報が含まれるようになりました。
・ホストプール設定完了
ログに、作成されたリソースグループ、ワークスペース、ホストプール、およびアプリケーショングループの実際の名前が表示されるようになりました。
・アプリケーショングループのユーザー割り当てログに、割り当てられた特定のユーザー名が表示されるようになりました。

OpenStack - 改良されたコネクタ構成およびプロビジョニング機能
OpenStackコネクタのVMプロビジョニングフローが改良されました。イメージ作成にはボリュームスナップショットベース (Glance/Cinder) のフローが採用され、VM作成時にネットワー
クポート/NICを事前に作成する必要がなくなり (ネットワークIDを渡すと自動的に作成されます)、コネクタ認証はアプリケーションIDとアプリケーションシークレットのみで済むようにな
りました (プロジェクトIDは不要になりました)。
注記 : OpenStackにおける「コネクタの追加」構成およびスナップショットからの完全クローンVMの作成に影響します。

OpenStack - キャパシティプランニングとスケジュールされたアクションのサポート
OpenStackコネクタ上で作成された共有ホスト型デスクトップ (SHD) プールに、容量プランを割り当てることができるようになりました。これは、他のプロバイダー/プールタイプです
でに利用可能な動作と同じです。

静的 (非デプロイ) プール向けコネクタからのVM削除を有効化
管理者は、コネクタから既存の仮想マシンを追加して作成された未デプロイのデスクトッププールを削除する場合、またはデスクトップページからデスクトップを直接削除する場合に、ハイ
パーバイザー/コネクタから仮想マシンを直接削除することを選択できるようになりました。
備考：
・削除はデスクトップとプールのページから行うことができます。
・ (デスクトップがドメインに参加している場合) Active Directoryからコンピューターオブジェクトを削除しません。

Nutanix での再起動操作におけるゲスト OS の再起動
Nutanixベースのデスクトップで管理コンソールから再起動を開始すると
、ハードリセットではなくゲストOSの正常な再起動が実行されるようになり、VMの突然のリセットによるデータ損失のリスクが軽減されます。

リクエストリダイレクトのための接続プロファイルの更新
クライアントと共有される接続プロファイルは、適切な仮想チャネルパラメータをWindowsエンドポイントに送信するようになりました。以前は、これを接続プロファイルに追加のコマンド
ラインパラメータとして指定する必要がありました。

備考：
Linuxベースのエンドポイントは、複雑なバージョン依存関係のため、依然として追加のコマンドラインパラメータを必要とします。
ARSログに相関ID (CCID、GCID、VCID) が追加されました
ARS (リモートSyslog) およびローカルコントローラーのログ (EDController.txt) には、ログイン、デスクトップ／アプリの接続、切断、ログアウト、アイドル／バックグラウンドセッションの処理、および管理者セッション操作にわたって、相関ID (CCID、GCID、VCID、およびACID) が含まれるようになりました。これにより、システム間でログの相関分析を行うお客様が、セッションイベントの相互参照をより容易に行えるようになります。

備考：
ログメッセージの形式はそれ以外に変更はなく、相関IDフィールドのみが追加されています。
「セッション (限定)」ノードにおける管理コンソールのアクセス制限
「セッション (限定)」モードで実行されているコントローラーノードにおいて、管理コンソールで表示・使用可能な機能が、ダッシュボード、ライセンス、ログ、およびSyslog設定のみに制限されるようになりました。セッション専用ノードでは、管理およびVDI管理操作は表示されなくなりました。

備考：
これはアクセス制御の強化を目的とした変更です。セッション専用ノードが本来実行すべきではないブール操作を実行できてしまったインシデントを受けて導入されました。
HySecure トークン署名キーの自動入力
組織で HySecure トークン認証を使用するように設定されている場合、HySecure トークン署名キーにはデフォルト値が自動的に入力されるため、管理者がゲートウェイから手動で取得する必要がなくなりました。管理者は引き続き、カスタムキーで上書きすることができ
ます。

接続プロファイルにおけるRDPプロトコラベルの更新 - 「追加設定」タブ
接続プロファイルのUIにおけるプロトコル選択ラベルは、分かりやすさを考慮し、バージョンに基づく名称からOSに基づく名称に変更されました。
備考：外観およびユーザビリティの変更であり、セッションの動作に機能的な影響はありません。
非アクティブなブールに対する電源操作の前に警告が表示される
非アクティブなブールに属するデスクトップに対してシャットダウン／電源オフ (または同様の電源操作) を試行すると、以前はフィードバックがなく操作がハングしたように見えたのに対し、現在はブールが非アクティブであり操作が実行されないことを明示する警告が表示されるようになりました。

APIと統合 (EDC.API / ARS)
・デバイスコントローラーにおけるヘルスAPIのサポート
デバイスコントローラーに、ノードの状態をプログラムで監視するための新しいヘルスAPIが追加されました。
・EDC.APIとコントローラーの変更により、「SMB Access Anywhere」がサポートされるようになりました。
・基本予約の作成/更新APIにおける追加フィールド
予約の作成/更新に関する基本API (EDC.API) では、フローティングVMとパーソナルVMの割り当ての指定、カスタムVM名のプレフィックス、および予約用に作成されたブールで「デスクトップを電源オン状態に維持する」を
常に設定する機能がサポートされるようになりました。
・インストーラー、パッチ適用ツール、および展開ツール
パッチ適用時にパッチャーはEDC.APIの設定を保持するようになりました。
Accops Hyper-V Manager (AHM) のログ構成の改善
AHMのログファイルは、無制限に増え続けるのではなく、1ファイルあたり50MB、10ファイル保持ポリシーに基づいてローテーションされるようになりました。定期的なヘルスチェックの
ポーリングは、INFOレベルからDEBUGレベルに変更され、ヘルスステータスの遷移は、ポーリングのたびにではなく、実際に状態が変化したとき (正常／異常) にのみログに記録されま
す。
注記： AHMホスト上のログ容量とディスク使用量を削減します。ヘルスマonitoring自体の機能に変更はありません。
その他のバグ修正

詳しくは製品サポートまでお問い合わせください。

Related Product, Service (公開)